

---

# ひぐらしのなく頃に歴～過去の記憶編～

kai

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ひぐらしのなく頃に  
〜過去の記憶編〜

### 【著者名】

レーナー

1

### 【作者名】

kai

【あらすじ】  
離見沢に引っ越す前のレナの物語です。レナがこれまでの歴史を語る！

## 終わりの始まり

主人公

れな（

主人公の中学校の友達

瀬上奈菜（せがみなな）

side レナ

これは、レナが圭一（友達）君達と出会う前のこと。茨城に引っ越して中学3年生になつた夏休み前日、レナは学校の帰り道はいつも友達と一緒に帰つていた。

「ねえ、レイナ（昔のレナの名前）ちやん今度の休みどこかに出かけようよ」

この子の名前は、瀬上奈菜（せがみなな）ちゃん小学生の頃からの親友。転校してきたレナを歓迎してくれた。

「うん～どこに行く～？あつそつだ！最近できたばかりのケーキ屋さんがあるんだよ～今度そこ行かない？」

「そうなの！？行く行く」

奈菜ちゃんは、目を輝かせて言った。奈菜ちゃんは、ケーキが大好きでよく一緒に甘い物の話をしていた。

「はう～かあいいよ～お持ち帰りイイイイイイ！」

「アラフ ン---アリーナイナカヌエス」

奈菜ちゃんは照れながら言った。そして、奈菜ちゃんと別れてまつすぐ家に帰つて今日のことをママとパパに話した。2人はレナの話を楽しそうに聞いてくれた。ママが言った

「レイナは、本当にいい友達に恵まれたわね」

「うん！！勉強も教えてくれるし困ったときは、助けてくれるし大好き！！」

ママは、微笑んで言つた

「奈菜ちゃんを大切にしてあげてね」

「うん……」

こうして一日が過ぎていった。この後どうなるのか、レナも分からなかった

## 終わりの始まり（後書き）

勝手ながら、レナのストーリーを書かせていただきました。  
田で見てやってください  
暖かい

## 樂しく（前書き）

訂正が一つあります。一話でお父さんとお母さんなのにパパとママにしてしまったことです。すみません

樂しく

朝、目が覚めて想い浮かぶこと

「あれは一体なんだつたのだらう?」

「よく見えなかつたけど誰かいた」

とつあえずベットから出て顔を荒い、髪を整えて、歯磨きをしたそ  
してお母さんとお父さんのいる部屋へ行つて  
2人に

「おはよう」

と言つた  
そしたら、

「おはよう」

と2人は言つた

「良く眠れたか？」

とお父さんが言った

「うん……よく眠れたおかげで奈菜ちゃんと旅行に行く夢をみたんだよ！」「

「やつが、良かったな」

その時、お母さんが料理を運んできた  
そして、こう言った

「夢を見るのはいいけどちゃんと現実も見てよね」

「むづかしい……ひょんと見てるよ……」

その瞬間、どつと大きな笑い声であふれかえった

朝一はんを食べ終わって奈菜ちゃんに電話をした

「今日、プールに行かないかな、かな？」

「うそ、行く」

「あつせつだーー今日ね奈菜ちゃんの夢を見たんだよ～」

「やうなのーーどんな夢?..」

「えーとね、奈菜ちゃんとレナで温泉旅行してる夢をみたのーー浴衣姿の奈菜ちゃんかあいにかつたなーお持ち帰りいいしたかつたなー」

「やうなんだ・・・」

「じやあ、9時に現地集合するね」

「うそ、じやあね」

「じやあね」

急いでプールの用意をした。そして、自転車に乗って集合場所に行

つた

集合会場所に行つてみると奈菜ちやんが待つていた

「いわん、待つた～」

「今、来たど！」

「じゃ、行つか」

「うそ

レナと奈菜ちやんが水着に着替えた

「まつりう…奈菜ちやんかあここよーお持ち帰つここ…」

「レナちやんやめしよ～もひ」

ひつて楽しい一日は過ぎていった

その翌日、警察から電話があった

踪したという知らせだった

奈菜ちゃんの家族が失

樂しく（後書き）

本当にすみません! ひらの都合でいつ投稿するかわかりませんので、  
ご了承ください

## 別れ

「そつそんなん、奈菜ちゃんの家族が失踪するなんて」

「はい、詳しく述べまだ分かりませんが、必ず」家族を探し出します

「この後、急いで奈菜ちゃんに電話をした

「奈菜ちゃん・・・大丈夫かな、かな?」

「う・・うん」

奈菜ちゃんの声は震えていた

「大丈夫、きっと見つかるよーーー」

「うん」

レナは、必死に奈菜ちゃんを慰めた

「何かあつたら、電話して」

「うそ、ありがと」

「じゃあね」

「じゃあね」

電話を切りレナは思った

「神様どいつが奈菜ちゃんの家族を助けて……」

奈菜ちゃんの家族がいなくなつてもいつ夏休みが終わらうとしていた  
ある日一本の電話があつた

「瀬上さんのご家族が遺体で発見されました」

ショックだつた、でも、レナ以上にショックをうけたのは、奈菜ちゃん  
やんだったと思う

奈菜ちゃんは、夏休みが終わっても学校に来なかつた  
後で聞いた話だけど、奈菜ちゃんの家族は、借金があつてレナが奈

菜ちゃんとプールに行つた時に川で自殺をしたそつなの  
ある田、向かっては必ず闇二三と用意を竟ひ

声が聞こえてくる方へ行つてみると

お父さんとお母さんが何か喧嘩しているようだつた

「おこ、の駅せどりのせいいつだー！」

「違うわよ！！」の人は仕事で一緒にだけ！！

「だったらなんだこの写真はーー！」

「普通仕事が一緒に腕を組むか?」

「誤解よ！」

「…ハナセハナセ、ハナセハナセ」

レナは心から、思つた

そんな毎日が続いたある日、奈菜ちゃんが登校してきた  
レナは、うれしさと不安が同時にきた

「奈菜ちゃん・・・」

「おせむー・レイナさん」

「アーティストはアーティスト」

奈菜ちゃんは元気そうに振舞つていたが、本当はまだ辛いのだと分かつた  
なるべくあの時のことをいわないように気をつけた  
この時、奈菜ちゃんが来ててくれてとっても助かつた  
なぜなら、お父さんとお母さんが喧嘩をしてるからだつた

「最近、お父さんとお母さんが喧嘩しちゃうのイヤナギだったりここのかな、かな？」

「うーん、いいせやつぱつレインちゃんが止めに入らしかなーよ」

「でも、大丈夫かな、かな？」

「大丈夫だよ！！」

「ありがとう[元気が出たーー.]」

「じゃいたしまして」

## 別れ（後書き）

次から、もう少し文を増やしてみたいと思います

目が覚めた時、まだ夜の3時だった、その瞬間にから誰かがレナを見ていた。暗くてよく見えなかつたけどレナにこう言った

「今すぐ雑見沢に帰りなさい」

これを聞くとレナは眠ってしまった  
今度起きたときは、朝だった

「あれは、一体なんだつたのだろう」

「前にも「こんな」というのがあったような・・・」

そんなことを想いながらもレナは着替えて学校に行く準備をした  
そしたら、お母さんとお父さんの喧嘩が始まった  
喧嘩の内容はいつも同じお母さんが浮気をしてるかしてないかだった  
レナは、奈菜ちゃんに言われた通りにこう言った

「嘘隣はやめてよーー！レイトが、おゆれんとお父さんが嘘隣している所なんてみたくなこよーーー！」

2人は、黙り込んだ

「「めんな、レイナもうしないよ」

「お母さん達が悪かったわ」

2人は、色々反省したような顔だった

「うん、分かってくれればいいよ」

「じゃ、学校に行つてくれるね」

「レイナ朝ごはんは？」

「じゃ、行つてきまーす！」

「あつ……もひ」

レナは、がんばって走った時間まで残り3分、何とか校門に入つて下駄箱に靴を入れてシューズに履き替え、ダッシュで走つて行き教室に着いた。教室に入つて椅子に座つた瞬間にチャイムが鳴り出し

た。

「危なかつた~」

「レイナちゃん珍しげになんかギリギリに来るなんて」

奈菜ちゃんは、レナの前の席で授業中によく話しては、先生に怒られた

「うそ、ひょっとお父さんとお母さんを呪つたら遅れいやつて」

「わうなんだ、良かつたね、言いたいこと言えて」

「うん……」れも奈菜ちゃんのおかげだよ、ありがとひ

「わたしは、友達として当然のことやつただけだよ」

その瞬間、安心したせいかレナからお腹がぐつぐつと鳴った  
みんな、唖然としてレナの方を見ていた  
レナは、顔がカアアアアと熱くなるのを感じた

「わういえば、朝何も食べてなかつたんだっけ

「こつものレインちゃんだったからあいよいよお持ち帰りいいで  
すのにな」

「それを、言わないで～」

授業中にもお腹の音がなるたびにみんながレナの方を見ていたその  
日の帰り奈菜ちゃんと一緒に今日の話をしてた

「わへ、本当に恥ずかしかったよ～」

「うん、すごい鳴つてたねもう笑いをこらえるのに必死だった

「むふふふ……奈菜ちゃんのイジワル～」

「うわだよ～」

しづりくじなことを話して奈菜ちゃんと別れたそれで、空を見て  
みたら夕日がすいへきれいだった。まるで真っ赤な血みたいに



夢（後書き）

徹夜してつくりました。おかしな点等がありましたら、コメントください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1000z/>

---

ひぐらしのなく頃に歴～過去の記憶編～

2011年12月5日19時03分発行